

令和5年度 自己評価・学校・施設関係者評価報告書

令和6年3月31日

学校法人 田澤学園 東一の江こども園

1. 本園の教育目標

いつもにこにこ元気な子ども
思いやりのあるやさしい素直な子ども
伸び伸びと創造性の豊かな子ども

<教育方針>

1. 明るく健康な精神と元気な活力に満ちた心身の基礎を築く
2. 基本的な生活習慣と正しい社会的態度を育成し、豊かな情操を養う
3. 伸び伸びとした表現活動を通して創造性を養う
4. 自主・自発的な活動を促し、自立する心を養う
5. 毎日の遊びや活動の中で健全な心身を養う

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

	課 題	具体的な取り組み方法
①	保育環境の充実	保育環境でも主に園庭や保育室などにおける物的環境の充実を図り、その効果を検討する。
②	保育者の関わりの充実	不適切保育とはなにか？を理解し、子どもの健やかな育ちにつながる保育者の関わりの質の向上を図る。
③	子育て支援および保護者に対する「伝える」の充実	認定こども園化にあたり必須となる子育て支援における内容の検討と充実を図る。 ドキュメンテーションなどの「伝える」内容や頻度などの検討および充実を図る。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

○保育者等の自己評価およびその共有

- ・各項目の「工夫したこと、よくできたこと」「課題に感じたこと」を各自記入
- ・記入したものを持ち寄り、園内研修において小グループで討議（令和5年2月8日）
- ・園長を中心に「工夫したこと、よくできたこと」「課題に感じたこと」をとりまとめる

○園の自己評価・学校・施設関係者評価

- ・1日のみの公開保育では日常の保育が見えにくくなる可能性があるため、年間通して保育関係者の園見学を公開保育とし、（園見学・公開保育参加状況は<参考>参照）感想及び意見を学校関係者評価のひとつとした。
- ・令和6年2月8日の公開保育・園見学に玉川大学講師上田先生に施設関係者評価を担当していただく。なお、上田先生には自己評価の園内研修にも参加いただき、自己評価と学校・施設関係者評価の接続の検討にもご協力いただく。
- ・保護者アンケートは令和6年2月26日～28日まで無記名のアンケート調査（インターネット利用）である。なお回答数は91名

	評価項目	評価	取り組み状況
1	保育環境の充実	A	<p>○各クラスの保育環境の充実のため、他クラスの環境やドキュメンテーションを参考する保育者は多く、安全面、生活面、遊びの3つのバランスの環境構成を目指し、保育環境の充実を日々努力している様子がうかがえる。</p> <p>○特に視覚的な工夫（見える化）を考えている保育者は多く、子どもたち自身で生活しやすく、遊びが充実できるような環境を目指している。</p> <p>○さらに動線の確保、ゆったりできるスペース、収納の工夫や年齢、発達にあわせたおもちゃの種類や数の検討などその充実是多様である。</p> <p>○それらの工夫等を日々の保育で実践しているからこそ、保育環境については園見学・公開保育参加者から評価する意見が多く見られた（学校・施設関係者評価参照）。そのため、評価をAとする。</p> <p>○その一方で難しさも感じているようで、片付け、一人ひとりが生活に意識が出来る環境や、教材の工夫など保育者同士の連携や環境に対する意識の柔軟さなどさらなる充実が今後取り組むべき課題となる。</p> <p>○さらに、コロナ感染が落ち着き、以前、積極的に実施していたことが継承されていない部分もあるので、来年度は保育環境の充実だけではなく、様々な事へのチャレンジも検討すべき課題である。</p>

2	保育者の関わりの充実	B	<p>○子どもとの関わりの中で、“絶対”をなくし、固定概念に捕らわれないようにする。初めから子どもの思いを否定するのではなく、一緒に考えたり調べたり、試行錯誤したりしながら、まずはやってみる。その気持ちで保育することが、子どもとの信頼関係を築き、安心できる関係に繋がっていくことを考えている保育者は多い。また特に012歳児担当の保育者からは話す声の大きさやトーンなど子どもたちが心地よく感じるような関わりの配慮の重要性や子どもたちからの発信に回答できるように常に受け入れる姿勢を持てるよう努力した。との取り組みの工夫も聞かれた。</p> <p>○クラスなどみんなで集まる時間である「みんなのじかん」を活用して、子どもたちの経験を広げたり、思いを受け止めたりしている。</p> <p>○こども園になり長時間保育が増えたが、長時間園で過ごす子どもたちのことを考えながら、子どもの表情を細かく読み取り、単に預かるだけでなく、保育の充実、保育者の関わりの充実の検討を継続している。</p> <p>○保育者の関わりの充実を図るために保育者間の連携は欠かせず、隙間時間を活用して共有や、職員が増えたことを肯定的に捉え、年齢や経験が多様になったことで、様々な意見を聞いたり保育を見たりと新たな学びの機会している保育者もいる。</p> <p>○不適切な保育は「～～をしない、言わない」と言うことだけではなく、こういった肯定的な子ども理解と保育者の関わりの充実を目指すことが未然に防ぐことにつながることも研修等で学んできた。</p> <p>○その一方で課題もあり、担任と2号・預かり担当との連携や、012こすもすと345おおきな木の施設間のさらなる連携の充実をめざすことで保育者の関わりがより充実するこ</p>
---	------------	---	--

			<p>とと考える。</p> <p>また、焦りや、業務の分担への課題などゆとりある業務に関する課題が保育者の関わりの充実を阻む事もあるので、来年度以降も取り組みの工夫をしていく必要があるため、評価はBとする。</p>
--	--	--	---

3	<p>子育て支援および保護者に対する「伝える」の充実</p>	B	<p>○保護者に日々の保育をドキュメンテーションを通じて伝えてきているが、「毎日のように見ている」人が51%「週1回程度見ている」人は35.2%で昨年度ほぼ同じであった。保育者からは「「おうちえん（ドキュメンテーション）を見て…」と話してくれることがあり、そこからさらに育ちを伝えることが出来た」などの意見がある一方、見ている人とそうではない人の意識の違いなどを課題と考える保育者もいたため、見てもらう工夫を今後も考える必要がある。</p> <p>○その一方、ドキュメンテーションは保護者に伝えるだけでなく、保育の振り返りのきっかけ、自分の保育の質、子どもへ向ける目線、遊びの充実につながっている実感、他の保育者のドキュメンテーションを見ることによる資質の向上など多方面の効果も見られるようになっている。</p> <p>○認定こども園になり子育て支援のさらなる充実を図ってきたが、2歳児親子広場「たんぽぽ」の利用者が少子化の影響もあり減少し、また、講演会参加者数も多いとは言えなかった。そのほかにも園庭開放や保育参加など複数の取り組みをしているが、その広報に課題があるように考える。</p> <p>○取り組みの内容は昨年度よりも向上している実感があるが、より伝わりやすく、またより広く活用してもらうための広報等は次年度さらに工夫が必要と考えたため、評価をBとする。</p>
---	--------------------------------	---	--

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

4. 総合的な評価結果

評価	理由
A	<p>○保育者等の自己評価において「工夫したこと、よくできたこと」の記述が多く、これは本年度保育者等が様々な工夫をしてきた結果である。</p> <p><保育者等の自己評価の「工夫したこと、よくできたこと」の記述例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・対応で困った際には、担任とも相談し対応方法を一緒に考え決めるように意識した。 ・おうちえん（ドキュメンテーション）で他クラスの情報を得ている。 ・各クラスに遊びに行くと、そのクラスで工夫していることがよくわかった。その発見が楽しかった。 ・導線を考えた環境構成 ・自然物などの発表したいものを図鑑の横に貼り、みんなで見られるようにした。 ・固定概念やめた ・掃除の時間や保育後の隙間時間にその日の出来事や子どもの姿を共有する。 ・行動の背景にある気持ちに着目し、保育者側の対応や環境などに工夫できるところがないか考える。 ・少しのじかんでも、ちょっとしたことでも話せる時間や関係がある。 ・保育者が増えた分、先生と子どもの関わりが増えた。年齢も様々なので幅が出た ・行事の掲示を残しておく。目に見て振り返ることができるように。 ・話す声の大きさやトーンなど子どもたちが心地よく感じるようにきをつけた ・子どもたちからの発信を的確に応答できるよう常に受け入れる姿勢を持てるように努力した <p><保育者等の自己評価の「課題に感じたこと」の記述例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・盛り上がってくると色々な遊びがコーナーとしてあるためゆったりできるスペースの確保が

	<p>難しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教材の使い方についての伝え方→育ちに必要な「無駄」なのか 教材は何をどこまで用意したらいいのか難しい。 ドキュメンテーションを見ている保護者と見ていない保護者の差がある。 保育者のねらいやねがいと、実際の子どもの姿とのすり合わせの難しさ。 共有や仕事の分担の難しさ。 コロナ明けで以前積極的に行っていたことを少し忘れてしまっていた。もっとさまざまなことにチャレンジしていきたい。 2号認定児保育が設置されて初年度ということで、働いている保護者のニーズにどこまで答えられていたか。応えられるところは応えてきたが、園のルールもあるので、その境目で悩む部分があった。 おおきな木への進級に向けて園庭や園舎に遊びに行く機会をもっと増やしていけばよかった 自分の遊びを思う存分楽しめるよう見守っていたが、遊びの発展ができるような配慮をしてもよかったかと感じた。 <p>なお、これら課題は深く検討したからこそその課題であることも多い。</p> <p>○環境構成の工夫はそれぞれに充分工夫し、またドキュメンテーションなどを参考に環境構成が出来るようになってきている。</p> <p>○保育者の関わりはこどもを肯定的に受容的に受け止めようとする姿勢が見られるが、「もっとできることがあるのでは？」と考える保育者も多く、これは向上心の表れとみることもできる。その一方で保育者の関わりは保育者等の連携によって向上が図れるものである。この連携をさらに充実したものにしていける必要がある。</p> <p>○保護者等に「伝える」方法は近年より多様になっている。そのための効果と課題をそれぞれの保育者が自覚している。また、こども園になったことで保護者の状況も多様になってきているため、その都度、検討する必要がある。これから増してくることは予想できる。</p> <p>○本年度の自己評価に関しては一定の成果があったため、引き続き、取り組むものの、今後、取り組む課題に関しては、より保育内容の充実を図るため他の視点から検討することとする。</p>
--	---

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	保育者間等の連携の充実	多様な打ち合わせの実施と連携の意識の向上および連携によることも理解、環境構成などの充実に取り組む。
2	保育者の学びの充実	認定こども園になり、業務時間も多様になってきたため、それに応じた研修等の工夫に取り組む。
3	保育者が提案するクラス活動と遊び	子どもの興味関心がうまれるような保育者の提案、活動やクラスなどで共有しより豊かにするなど、「みんなのじかん」の充実を図る

6. 学校関係者評価委員会の評価

○年度末の保護者アンケートでの東一の江幼稚園の保育についての評価は以下の通りである。

「東一の江幼稚園の保育について5段階でお答えください」

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
たいへんよい	62%	67%	62.6%
よい	34%	32%	27.5%
ふつう	3%	1%	9.9%
わるい	1%	0%	0%
たいへんわるい	0%	0%	0%
回答者数	119	96	91

昨年度に引き続き、多くの大変高い評価をいただいた。また、保護者アンケートや学校関係者評価委員から次のような意見があった。

<保護者アンケートより>

- 子どもの良いところを、常に見つけて守ってくれる
- 子どもを中心とした考えや、やってみたいことを広げていき、みんなと一緒に考えながら進めていくという思いが自然でいいなと思うから。
- 子ども主体の保育で子ども自身がつねに自分事という実感を持って生活をしているように感じる。
- ドキュメンテーション等で子供の様子を見ると、のびのびと笑顔で過ごせていることがわかり先生方が優しく根気強く接してくれていると感じました。
- 子供の良い所をたくさん見つけてくれて子供の考えを尊重した保育をしてくれていると思う
- 1人ひとりに寄り添ってくれる点。沢山の先生が関わってくれる点。
- 子供によりそった接し方をしてくれ、みんな一緒では無く、個々を尊重しながらみんな同じ成長の到達点にむけて先生が努力してくれている
- こどもの好きなこと、好奇心を大事にしている、クラスの皆んなの時間もあり、バランスがとれた保育で、先生方もこどもにきちんと向き合っているところが良いと思う。

高い評価がある一方で、保護者アンケートからは来年度変更となる行事に関することや「みんなで」する活動などに対するご意見、要望もあり、園の方針をより伝えていくと同時に、次年度の参考とさせていただきますとともに自己評価の1項目(3参照)として取り組んでいく。

<園見学・公開保育参加者より>

- どの部屋も子どもたちのアイデアや工夫があふれていて、大人であってもわくわくする環境でした。
- なんとなくやるのではなく、日頃の子どものたちのつぶやきや思いを先生方が見逃さず聞き逃さずにいるのだと思います。
- 「みんなのじかん」に子ども同士で遊びの共有をしている点も面白いと感じた。
- (入園からの)積み重ねが子どもたちの「やりたい」「～をしたい」という力につながっているのだと思った。
- 子ども自身が自分で考えて出来る環境が準備されていると感じました。
- 保育者自身がまず面白そうと思ったことを保育に展開してみるというのは、やはり一番大切で、その中には日頃のこどもの姿を理解しているからこそわかる保育者の視点があるのだと思った。
- 子どもたち一人ひとりを大切にされた保育がなされているのだらうと思いました。子どもたちがのびのびしているのはそのせいでしょう。
- 様々な人たちと同じ方向を向いて保育をされているという印象を受けました。
- 子どもたちの“大好き”が大切にされていることが伝わって参りました。
- 気持ちがわくわくするような材料や遊びの続きを楽しめる場があること、活動の経過がこどもにも大人にもわかるような掲示など、自分の園でも取り入れたい内容があった
- 幼児は自分たちで考え、自分たちで解決していける存在で、教師はその育ちを少しだけ「支える」ような存在になることの大切さを再認識しました。
- 保育者同士のアイコンタクトと声かけ。お互いがお互いを理解しているからこそ出来る部分なのではないかと感じました。

なお、園見学・公開保育、園内研修に参加の上田先生(玉川大学)からは以下のご意見をいただく。

- 廃材や段ボールなど多様な教材素材が多だけでなく工夫されている
- 大人は自分のやりたいことをかなえてくれる存在だと感じている環境であった
- 「やってみよう」をかなえる環境の工夫が見られる
- 楽しいを優先する保育が実践されていて、環境の豊かさは保育が楽しいという教師の思いにつながっているのではないか。
- 環境の工夫はすぐできるものではなく、作っていった歴史があったのではないか?そしてその歴史を大事にしてほしい。

<参 考>

園見学・公開保育参加状況

日時	見学者	人数
11月6日	幼稚園 園長 他	7
11月27日	幼稚園 教諭	2
12月18日	幼稚園 教諭	1
1月15日	幼稚園・保育所 園長 他	7
2月8日※	幼稚園 園長	14
2月20日	保育園 園長 他	8
合計		39

※2月8日に上田よう子先生（玉川大学講師）参加。